

第3回 第3次丹波市総合計画審議会 会議録

日時：2023年6月14日（水）

19:00～21:00

場所：氷上住民センター 大会議室

【出席者委員】

岸本 好量、竹内 真子、細見 博美、植木 光敏、大野 亮祐、坂本 康子、
瀬尾 せつ子、柳瀬 長明、山口 洋子、杉岡 秀紀、池畑 美帆（11名）

【欠席者委員】

上羽 裕樹、森島 斉、足立 はるみ、寺内 清、實吉 直（5名）

【事務局】

副市長、清水ふるさと創造部長、磯崎総合政策課長、多田政策係長、足立主事、前川主査、足立大樹主査

配布資料：【資料1】 第3次丹波市総合計画の策定の進め方

【資料2-1】 市民アンケート調査結果報告書

【資料2-2】 未来を描くアンケート調査（Web）結果報告書

【資料2-3】 団体ヒアリング実施報告書

【資料2-4】 市民ワークショップ・若手職員ワークショップ報告書

【資料2-5】 基礎調査報告書

【資料3】 審議会委員名簿

【資料4】 各市町の総合計画・将来像について（参考資料）

1. 委嘱書の交付

新たに委員となった坂本氏へ副市長から委嘱状の交付

坂本委員自己紹介

2. 開 会

3. あいさつ

【副市長】令和4年度に市民アンケートやワークショップを実施し、結果報告書ができあがっている。多様な意見を練り上げていく作業も総合計画の一部であると考えている。単に立派な冊子をつくり上げることが目的ではなく、市民の皆さんと練り上げた思いが共有でき、その内容が将来に向けて期待ができる・明るさを感じられるものとなっているのが目指す総合計画である。委員の皆様にはアンケート結果報告書等に関して、忌憚ない意見をいただきたく思う。

【会 長】本日は会議の最後で小グループに分かれて意見交換をしていきたいと考えている。

その前に、先日参加した学会から少しだけ例示できればと思う。杉並区長が「地域主権と

いう希望」という著書を書かれている。50万人を超える人口の町を「ミュニシパリズム」という地域主権の自治体にしようとされている。個別具体的な施策ではなくて、住民がお互いを心配し、対話と協働を通して地域の問題を解決していくという強い確信と倫理観が、市民の生活をつくっていく。行政だけが主導し、方向性を決めていく時代は終わった。この間実施された市民アンケートなどの各種調査結果は、賛否両論の印象。住民の生の声を受け止め、丹波市の現状を踏まえた議論をして欲しい。最終的にきれいな冊子ができたというだけでは意味がない。総合計画の中身の言葉にどれだけの思いを込められるかが試されている。

奈良市は子ども政策に重点を置かれている。中核市として児童相談所をもたれている。児童相談所と同じところで子どもの遊び場なども設けられている。DVや引きこもりなど様々な悩みを抱える家庭・子どもたちの支援が同じ空間で行われている。子どもの権利条例のど真ん中の取組として子ども議会というのをされている。子どもたちがどんな未来をつくりたいか聞き取り、出た意見をどんどん実現していつている。丹波市にそのような機会があるか。高校生段階ではされているが小学生・中学生の声を聞く機会も必要。朝来市は、総合計画は昨年づくり終わっているが、市民と対話する場を継続して持たれている。

先日、高知県知事の基調講演を聞いたとき、高知県は67万人しかいない、まさに人口減少の自治体である。高知県は、産業振興計画をもとに、徹底的に地産外商で盛り上げる政策に重点を置かれており、高知大学も伴走している。あれもこれも取り入れるのではなく、地産外商のキーワードを核にして、すべての政策をくみ上げられている事例もある。

丹波市の総合計画が今後、どのような形になるか分からないが、丹波市の柱となるものをこの後の協議で議論していければと思う。

4. 報告事項

(1) 総合計画の策定の進め方について【資料1】

・・・(1) について事務局説明

(2) 市民アンケート等各種調査の結果報告【資料2-1～2-5】

・・・(2) について事務局説明

5. 協議事項

(1) 将来像案の検討について【資料4】

・・・会長からグループワークについて説明。2グループに分かれて将来像について協議をした。
・・・意見の共有

【第1グループ】 「丹(まごころ)」「人」「自然」というワードを次期計画の将来像にも入れ込んでいき、「丹(まごころ)の里」という単語が読み方の記載が無くても読めるように知れ

渡れば良いという意見が出た。「自然」というワードも市民アンケート・ワークショップから沢山の意見が出ていた。また、「やさしい」「共生」「共創」といった、人とつながりを感じるワードについても話し合った。ワークショップで意見があった「新時代に対応できる」といったワードから、DXの背景などもあるなかで、「新時代」「新」というワードを使う提案もあった。

- 【第2グループ】 第1グループでも話されていたが、「丹（まごころ）の里」「人」「自然」というワードを次期計画の将来像にも入れ込んでいく案があった。また、外部との交流、内部（市民の）の交流が重要だという視点から「交流」というワードも使っていただけるとの意見があった。「自然」という単語は、農・工・商・福の施策を押し上げていくワードであり重要。そのまま使うのではなく、アンケートの結果でも出ていた「里山」など、丹波市らしさを感じられるワードに置き換えて使っていくアイデアがあった。また、従来のような将来像ではなく、市として重点をおいている施策が見えるような将来像も目を引いて良いのでは。市民が自ら活躍することや、外部の人の視線を集めるという視点から、丹波市自体や市民が「光る」「輝く」、また、「磨く」というイメージの単語が入れられないかという意見が出た。

6. その他

（1）第4回丹波市総合計画審議会の開催

日時：令和5年7月10（月） 午後2時30分から

場所：丹波市役所 第2庁舎2階ホール

（2）第5回丹波市総合計画審議会の開催

日時：令和5年8月23（水） 午後1時30分から

場所：丹波市役所 第2庁舎2階ホール

7. 閉会

【副会長】 キャッチフレーズはオリジナリティがあり、子ども大人もお年寄りも、誰もが自然と口に出てくるもので、心にすんと落ちるものでなければならない。また、行政のため、市民のためといったものではなく、私たちみんなのための将来像になるよう考えていく必要がある。次回までに各委員には、3～4案を考えてきていただきたい。

以上